
囚人

架羅馭璃 千佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

囚人

【Nコード】

N6773Y

【作者名】

架羅 駆璃 千佳

【あらすじ】

一人の囚人が光の世界で住む子に恋をした。

最期に逢いたいという想いがすごく切ない

僕はある日大罪を犯して囚人になってしまった。
ある日僕は恋をした。

柵の向こう側の世界を知る君に。

僕は自由を奪われて迫害を受ける身。

僕の何もかもが、汚い。

心も体も。

だから僕と君とじゃ差がある。

僕は君のことが知りたくて手紙を書いた。

その手紙を紙飛行機にして君へ飛ばした。

僕たち2人を隔てる壁を越えるように。

ああ、僕は知っているんだ。

もう二度と柵の向こう側の世界で自由になれるというのも嘘なんだと。

だけど僕は君がいればどんな嘘だって本当になる気がするんだ。

「僕とこっちにくいて話そうよ」

けしてこの想いは伝わらない。

だけど君を見ることが明日へのささやかな幸せなんだ。

幾日幾月。

あれから毎日君の紙飛行機が僕の喜び。

だけでも君は突然告げた。

「遠くにいくの」

「だから」

「会うのが」

「今日で最後」

「ばいばい」

ああ、今日まで生きてきてこれほど苦しみながら泣いた日は一度だつてなかった。

僕は君がいればどんな運命も笑顔に変えられる気がしたんだ。
名前も知らない君と出逢つて未来が輝いた気がしたんだ。

君を呼ぶことも追うこともここから出られない僕には何一つ出来やしない。

ついに僕の番が来た。

君のいなくなった今、この世に未練はないけれどなぜか心が叫んでる。

もう少しだけ生きたい。

今はもう難しい気持ちじゃなくてただ君に逢いたい。

もう一度、君の顔が見たい。

最期に君の顔を瞳に焼き付けたい。

君と過ごしてきた日は戻らずに、走馬灯のように蘇る。

一つ一つ君がくれたものは僕の糧となつていった。

闇が渦巻いている雑草のそばに咲くきれいな一輪の華。

僕は雑草。君は華。

生きていく世界が違い過ぎたよ。

だけど僕は必死に手を伸ばしてた。
君に届かないと知っていても、伸ばしてた。

お願い。

これが最後というのなら、僕をもう一度あの子と話をさせて。
狭く暗い閉じたその部屋に切なくただたその声は響く。

胸も息も苦しくなる。

せめて君の名前だけでも知りたかった。

「ねえ、なんで君がここにいるの？」

「あなたを待っていたのよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6773y/>

囚人

2011年11月20日18時27分発行